宣教の声
The Voice of Mission
海外邦人、欧州諸国、
および迫害下にある聖徒への宣教
2022年 12月号
No. 483

ランドセルの贈り物に大喜びの子どもたち
東ヨーロッパ・カルパチアのシュタイッシェ村で

ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎

主をほめたたえよ！

彼が香をたく間、外では大勢の民がみな祈っていた。
すると、主の使いが彼に現れて、香の祭壇の右に立った。
これを見たザカリヤは取り乱し、恐怖に襲われた。
ルカ1：10-12

主イエス・キリストの聖誕を賛美します。

ザカリヤはエルサレム神殿に仕えた祭司でした。しかし、主の使いが彼に現れた時、不安と恐怖につつまれました。み使いは「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。その子はあなたにとって、あふれるばかりの喜びとなり、多くの人もその誕生を喜びます。」（ルカ1：13、14）と言いました。

主のお告げは、①男の子が与えられる（彼とエリザベスには長い間、子がなく願望が聞かれた）。②天からヨハネという名前が与えられる。③男の子はザカリヤにとって喜び、楽しみとなる、④そして多くの人も彼の誕生を喜ぶ、というものでした。やがて生まれたヨハネは、人々を神に立ち返らせる働きをする人になりました。確かに、バプテスマのヨハネは荒野で道を備える人となり、メシアであるイエス・キリストへの道を備える器でした。

父ザカリヤは、御使いの「約束のことば」を信じられませんでした。聖書は「これらのことが起こる日まで、あなたは口がきけなくなり、話せなくなります。その時が来れば実現する私のことばを、あなたが信じなかったからです。」（1：20）と記しています。不信仰となったザカリヤにはペナルティーがかかりました。ではなぜ、ザカリヤほどの人物が不信仰になったのでしょうか。信じられなかったからです。信仰の父アブラハムの不妊の妻サラも子どもが与えられると聞いたとき、信じられませんでした。信じるとは、どういうことでしょうか。信仰は人間の評価や領域を超えるものです。これほどの人物だからとか、こんな経験者だからではありません。まだ10代の少女であったと言われるイエスの母マリアは、「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」（ルカ1：38）と告白しました。まもなく御子イエスの誕生を記念するクリスマスを迎えます。私たちはみ使いのことばを素直な心で受け入れる信仰で、応答しようではありませんか。

コロナ禍の海外邦人宣教 24
米国邦人宣教

ニューヨークめぐみ教会
牧師　笹川雅弘

オミクロン株大ブレイクの中で子どもクリスマス会の実施

2021年12月は、コロナ禍でしばらく中止していた子どもクリスマス会が、2年ぶりに開催されました。オミクロン株大流行のあおりを受けて、直前に6名のキャンセルが出ましたが、計22名の子どもたちが参加し、楽しいひとときを過ごしました。この子どもクリスマス会で初めて教会に来場されたご家族の中から、その後礼拝につながるご家族が起こされました。クリスマス会に参加した子どものお母様としばらくZoomと併用で礼拝参加された後、オンラインで受洗準備の学びを開始。2022年イースターの受洗へとつながりました。子ども向けの福音の種まきがこのような形で実を結んだことは大きな喜びとなりました。

イースター礼拝での受洗

子どもクリスマス会をきっかけに教会に来られるようになったST姉は、小さなお子様二人の子育てに奮闘しながらも無事受洗準備を終え、イースター礼拝で受洗の恵みにあずかりました。それ以来、必ずお子様二人と一緒に毎週礼拝に参加されています。また、2022年春のゴスペル・ワークショップにもクリスチャンとして参加し、2022年秋のゴスペル・ワークショップには、お子様と一緒に参加されています。

最近の礼拝

祈っていた永住者の受洗者

NYめぐみ教会は1990年以来、多くの駐在員を絶えず日本に送り出す働きを継続してきました（累計ではクリスチャン・求道者あわせて百名ほど）。しかしやはり永住者の教会員が少ないと教会形成がどうしても不安定になるので、永住者の救いを祈ってきました。2022年はその祈りがきかれはじめ、5月29日にはニューヨーク大学に通うRK姉、7月10日にはRK姉のお父様、SK兄が受洗へと導かれました。その後、9月には永住者のクリスチャン2名が転入会されることになり、今までほぼゼロであった永住者の柱が少しずつできてきました。基本的に私たちの教会は日本と世界にクリスチャン・求道者を送り出し続ける使命を担っていますが、できる限り多くの永住者がこれからも救いへと導かれ、この尊い働きに加えられて欲しいと願っています。

春と秋のゴスペルワークショップ

2022年3月からは春のゴスペルワークショップが開始され、大人22名、子ども22名が参加。6月11日のコンサートをご覧になった多くの方が感銘を受けられ新たに参加され、秋のゴスペルワークショップには大人35名、子ども37名が参加しクリスマス・コンサートへ向けて毎週教会で練習を重ねています。大人も子どもも、練習開始前には10～15分ほどの時間をかけ、歌う曲の歌詞の解説という形で、聖書のメッセージを伝えています。また今まではコロナ禍のため十分に行えなかった毎週の練習後の交流の時間も、徐々に増やしています。礼拝後の交わりの時間は今年5月から復活しており、自由で楽しい交流の時間が与えられ感謝です。

接点の拡大をめざして

今までは教会の活動として家庭伝道集会・聖書の学び会等を行ってきましたが、今後はより幅広い接点を求めて、NYエリア全体で行われている超教派的な聖書の学び会（Zoom）へも積極的に参加していく予定です。超教派的な交流には配慮も必要ですが、少しでも、何らかの事情で行き場を失っているクリスチャン、求道者たちの受け皿となっていければと願っています。

高齢者信徒のケア

教会には働き盛りの駐在員ご家族が多い中、現在、NYめぐみ教会には、97歳と90歳の教会員がいます。お二人とも車で教会堂へ足を運ぶ力が無いので、礼拝にはZoomで参加されています。他の教会員とも協力し合い、週に一度以上はご自宅を訪問し、主にある交わりと祈りの時を持つようにしています。自宅を自由に出ることができない信徒との交わりと必要なケアをどのような形で担っていくか。どこまでを福祉に任せ、どこまでを教会の愛の実践として行っていくか。線引きは必ずしも容易ではありませんが、日頃の宣教活動の多忙さに埋没することなく注力していきたいと思っています。

祈祷課題

日本とアメリカの物価レベルの差がこの数十年間で拡大してきたことに加え、米国内の記録的なインフレと急激な円安の進行により、経済的に大きなチャレンジを受けています。これは駐在員たちも同じです。教会員・宣教師の霊的・身体的健康と、さまざまな逆風の中でも力強い聖霊の働きの中で主のみわざと栄光が豊かに現され、引き続き多くのクリスチャンと求道者を日本と世界各地に送ることができるよう、お祈りとご支援をいただけるならば幸いです。（つづく）

ハーフォード家庭集会後のランチ

黒田禎一郎牧師と行く聖地イスラエル10日間の旅

イスラエルツアー再開しました！

私たちの聖地旅行の特徴は、心を静めて歩く「ゆったり旅」です。イエス・キリストが愛された静かなガリラヤ湖で3泊し、ゆっくりした静思の時を持ちます。毎朝のデボーションから始まり、野外礼拝でも神を賛美する楽しい旅です。

期　　間：2022年2月6日（月）～2月15日（水）10日間
募集人数：25人（最小携行人数15人）
旅行代金：498,000円（別途燃油チャージ、出国税が必要）
申込締切：2022年11月末（定員になり次第終了）
団　　長：黒田 禎一郎　利用航空会社：トルコ航空（羽田空港発着）

お申込・お問合せ：（株）ホーリーランドツーリストセンター
大阪市中央区北浜 2-3-10 VIP 関西センター5階
TEL：06-6226-1307 FAX：06-6226-1308　企画：ミッション・宣教の声

海外伝道シリーズ

旧東ヨーロッパの教会と信者は今

175

ウクライナ共和国
黒田禎一郎

“主よ　今　私は何を待ち望みましょう。私の望み それはあなたです。
主よ　私の祈りを聞いてください。助けを求める叫びに　耳を傾けてください。私の涙に 黙っていないでください。私は あなたとともにいる旅人　すべての先祖のように 寄留の者なのです。“ 詩篇39：7,12

ロシア軍のウクライナ侵攻が始まり、すでに9ヶ月以上の月日が経過しました。毎日毎晩のように、破壊と火災、そして死傷者の知らせが報じられています。無惨に人命が奪われ、婦人たちの泣き声と子どもたちの叫び声が聞こえます。特に東ウクライナの現状は悲惨です。男たちは前線に出て国の防衛のために戦っています。この戦いの出口はどこにあるのでしょうか。この戦争に終わりはあるでしょうか。人はどう生きれば良いでしょうか。ここでは、戦いは現実ですから、言葉だけの信仰は通じません。次は現地ハルコウのある伝道者からのレポートです。

西ウクライナからハルコウへ支援に来た兄弟たち

戦争に終わりがない

どの国でも隣国との間には国境がありますが、戦争には境がありません。ロケット弾やミサイルは国境を越えて飛び込み、私たちの町や建物を破壊しています。何十年もかけて築き上げた美しい建物が一瞬にして破壊されました。しばらく前までは、子どや若者たちが明るい笑い声で戯れていた場所が、今では廃墟となりました。突然、予期しない爆撃が幸せを破壊しました。私たちの理性の全ての限界をもう超えています。

壊された家屋

罪には終わりがない

国境を持つどの国家でも、人間の怒り、悪意、憎しみ、虐待に対して制限を設けるものです。しかし戦争は罪であり悪です。戦争の終わりを告げて、制限を設けようとはしません。戦争において人間は、恐ろしい犯罪を平気で行います。墓地は新しく埋葬された遺体で、あちこちに新しい土盛りが見られます。遺体は自然死ではなく、想像を超える怒りと悪意と憎悪に満ちた事故死です。怒りと憎悪に終わりがないならば、人は切れてしまいます。戦争という罪は子どもにも大人にも惜しみなく襲いかかり、深い傷跡を残しています。それは自然風景や家屋への傷跡でなく、心深いところの記憶に残る傷跡です。いったい、誰が人の心の傷を癒すことができましょうか。

罪という語には「よろしいでしょうか」とか「すいませんが」と言うような丁寧な語彙は全くありません。罪は悪意と妨害、焼却と破壊に満ちた恐ろしいものです。光と闇、義人と悪人、清潔と不純とどういう関わりがあるでしょうか。破壊と混乱に満ちたウクライナ社会で、どこに解決があるでしょうか。私たちはその解決は、限りない愛を語る聖書にあることを知っています。聖書は生きる希望を失った人々に解決を与えるすばらしい神の書です。

ハルコウのキリスト教会

聖書には終わりがない

戦争禍で生きることは容易ではありません。毎日ミサイル攻撃によって路上には、死者が横たわっている現実があります、しかしながら、キリストの教会に毎日何百人もの人々がやって来ます。しばしば会堂内に余席がないほど集まります。礼拝に参加する人々は、窓外の爆撃音に心奪われることなく、神のみことばを聞きともに賛美したいと願っています。

このような戦時禍での礼拝責任は、牧師と長老が担っています。人間的に思うならば、不安と恐れでいっぱいですが、神の前で罪を認め回心する姿には神の圧倒的勝利を見ることができます。罪ある生活からキリスト・イエスと共に歩む生活への移動は、神がなされる奇跡のわざです。聖書は終わりのない愛と慈しみを与えてくれます。これが今、私たちがウクライナの戦時禍で経験していることです。

救援物資を受けとる人たち

私たちは今、戦いの渦中にある人々に何千冊もの聖書を配布しています。人々が集まる所で、「聖書を希望する人はいますか」と尋ねると、みな「はい」と言い多くの人々が集まって来ます。世代を超え、男女の性別を超え、人々は神の書である聖書を求めています。福音の光は生きる希望を失った人々の心の深い部分を照らし、励ましと力、そして救いを与えるからです。ミサイル攻撃のアラームが鳴り響く中ですが、私たちは路傍伝道をしています。キリストの福音を語る自由があります。神だけがこの混乱が続く社会で、光と希望を与えるお方です。何千キロも離れた西側の多くの聖徒たちが、私たちを覚えてお祈りくださり、救援物資と献金を届けてくださり、尊い愛に感謝しています。どうぞ続いてお祈りとご支援をお願いします。（つづく）

北朝鮮からの叫び 60

父の祈り

我が子が信仰の遺産を受け継ぐことは、キリスト者全ての親が願うことです。子どもたちを幼い頃から教会へ連れて行き、どんなに聖書を教えても、彼らが成長すると,教会から、そして神から離れ、自分の思いのままに生きていくことがあるかもしれません。けれども、我が子が神からどんなに遠く離れたように思えても、親の涙の祈りに勝るものはありません。天の父なる方は、地上の親よりも子どもたちを深く愛して下さり、親である私たちの祈りを必ず聞いて下さいます。

消えた父

脱北し大韓民国に定住して17年になるイ・ヨンジュンは、父親が生きていた年齢をとうに越し、52歳となりました。1945年の日本支配下からの解放後、半島分断によりヨンジュンの両親は南朝鮮（大韓民国）住民に属していましたが、朝鮮戦争により、彼らは南朝鮮から北朝鮮への住民登録を余儀なくされました。ヨンジュンの両親は北と南に翻弄されようとも、貧しい中をつつましく勤勉に暮らしていました。ところが、金政権は大々的な住民統制を始め、両親は南朝鮮住民だったという理由で、咸興市へと強制移住をさせられました。そんな両親のもとで生まれたヨンジュンは、特に父親の記憶がほとんどありませんでした。ただ、イエス様の話しをしてくれていたことを覚えていました。父はある日を境に、忽然と姿を消しました。おそらく、南朝鮮の住民であったこと、そして、密かにキリストを信仰していたことで保衛部に拉致されたと考えられました。母は父が保衛部に捕らえられても、キリストへの信仰を貫いていたことを風の噂で知りました。

姿無くとも生きる愛

父親が政治犯収容所にいるかもしれないことは、息子の将来に影を落とすことになり、母は我が子を自分の母親、ヨンジュンの祖母のもとに預けることにしました。社会的環境において何の不利もない祖母の息子として、新しい身分で将来安泰に歩んでいけると母は考えました。息子を手放したくない気持ちを抑え、自分の生命よりも大切な我が子を守るためヨンジュンを祖母に託すと、母もそのまま姿を消しました。祖母は娘の悲しい心情を理解し、幼い孫を守るためにそのまま黙って娘を去らせました。彼は母ともそれっきり会うことはありませんでした。彼は両親がつけてくれた本名さえも忘れ、家族の記憶は薄れていきましたが、両親の姿は無くとも、息子への愛だけは生き続けました。何処かで息子のために積まれている父の祈り、息子の幸せだけを願う母の犠牲がヨンジュンを守り、彼を健やかに成長させました。

祝福を流す者

成績優秀な模範学生として、また軍人としても頭角を現し、エリート街道を歩んでいたヨンジュンに、北朝鮮での暮らしは何の疑問も不満もありませんでした。ところが、13年間の特殊部隊通信兵としての職務が、彼を変えていきました。それまで世界のことなど何一つ知らなかった彼が、ラジオ通信により米国や韓国、日本など海外の情報を得るようになり、それは兵役を終えてからも秘密裡に続きました。特に韓国からのキリスト教宣教放送、極東放送（FEBC）から流れる、かすかな声を通してイエス・キリストの福音を聴き、彼は神の愛を知りました。

その後、ヨンジュンは37才で妻と北朝鮮を脱出しました。キリストとの出会いを与えてくれた極東放送で、今度は自分が神の愛を伝える使命を持ち、対北朝鮮放送制作と出演に尽力を尽くしました。長年に渡り、ラジオを通して祝福の泉を流し続けたヨンジュンでしたが、その泉が止められる出来事が起こりました。文在寅政権下において、北朝鮮政権を刺激するような全ての働きが合法的に禁止される事態となりました。その影響はヨンジュンにも及び、韓国政府が認めた内容だけを放送せよという圧迫を受けました。韓国政府からのその要求に屈することはできず、彼は極東放送をあとにしました。その後、ヨンジュンはタクシー運転手として働くようになり、車内でかけるラジオはいつもFM106.9をかけ、神の愛を乗客たちに伝え続け、彼は韓国で「ベストタクシー運転手」として選ばれるようになりました。神は彼を新たな方法で、人々に祝福を流す者として導きました。

祈りで我が子を抱き締めよう

イ・ヨンジュンの心に、初めて撒かれた福音の種子とは、彼が聴いたラジオ放送ではなく、幼い息子に両親が語ったイエス様の話しでした。両親の記憶もなく、自分の名前さえ憶えていない彼が、親からイエス様の話しを聞いたことは覚えていました。福音とはその幼い心にさえ、いつまでも残る強烈な力があり、神の息吹が宿ったことばであります。ヨンジュンの心にその種子があったからこそ、ラジオから流れる福音に彼は耳を傾けることができました。親や日曜学校の教諭が、子どもたちのために語り続ける福音は、今は目に見える変化がなくても、また、子どもたちが教会から離れても、確かに子どもたち一人ひとりの心の土壌にその種子が蒔かれ、それは決して失われることがありません。そして、父がヨンジュンのために積み上げた祈りは、たとえ父が死んでも生き続け、その父の祈りは息子が時を経て、イエス様と出会うように導いてくれました。親である私たちは、我が子の罪ためにもイエス・キリストが、十字架の上で御自身を捧げて下さったことに日々感謝を捧げ、子どもたちがいくつになっても、どんなに遠くへ行っても、祈りで我が子を抱き締める、そんな親となれますように。私たちを日々とりなして下さる父なるイエス様のように―。

彼らひとり一人のために、それぞれの全焼のいけにえを捧げた。ヨブは「私の息子たちがあるいは罪を犯し、心の中で神をのろったかもしれない」と思ったからである。ヨブはいつもこのようにしていた。
（ヨブ記1:5）

（名前は仮名です）（次号につづく）

北朝鮮の偉大な指導者

World View ワールド・ビュー

ドイツ

新しいHMKの建物

●宣教団体「メルテイア・キルへ」（HMK）は、世界50ヵ国の迫害下にある教会と聖徒たちへの支援活動を推進しています。このほど南ドイツのウーリンゲンにあった本部事務所を中部ドイツのヴェツラーに移転しました。落成記念式典には内外から約400人が集い、宣教団体の新スタートを始めました。式典のメイン説教者はオラフ・ラッツェル牧師（ブレーメン聖マルチニ教会）でした。ラッツェル牧師は「地よ、地よ、地よ。主のことばを聞け。」（エレミヤ書22：29）のみ言葉から、現代のキリスト教会と聖徒の使命を鋭く説き明かしました。1970年では、ドイツに住む人々（プロテスタント教会、カトリック教会）の約90%が、まだ信仰を持っていました。しかし現代では50%以下となっていると語りました。その理由はキリスト教会が神のみ言葉に返らないことと、教会でクリスチャンへの迫害がほとんど取り上げられないところに問題があると語りました。式典ではアフガニスタン、ナイジェリア、北朝鮮から報告がありました。

オラフ・ラッツェル牧師

アフガニスタンからのレポートは宣教団体「オール・ネイションズ」（英国、ロンドン）のアンディー・ディパー師で、ディパー師は26年間アフガニスタンで宣教した経験から語りました。想像する数字ですが、現在約2万人のクリスチャンが地下に潜り教会生活を送っています。何よりも食物が不足し、非常な困難を抱えています。それに約350万人の国内難民が難民収容施設において、西側からの支援を受けています。しかし、その中でキリストの愛が間接的にクリスチャン・ワーカーによって伝えられていると言います。

ナイジェリアからのレポートは、ナイジェリア人のオビオラ・イケ教授（カトリック神学）でした。同教授によれば、ナイジェリア国はクリスチャンへの迫害がアフリカで最もきびしい国です。イケ教授は「私たちクリスチャンが学校や病院を建てようとする中、憎悪心に満ちた一部の過激派イスラム教徒は、私たちを殺害しようとしている」と語りました。現在、ナイジェリアの刑務所内の囚人約24万4千人の80%はクリスチャンです。その大多数はなんの罪もない人々ですが、約300ユーロ（約43,500円）で釈放されると言います。ナイジェリア人口は約2億2千万人で、約49%がイスラム教徒、49%がキリスト教徒です。オープン・ドアーズによる世界迫害度順位では、第7位です。

北朝鮮からのレポートは、HMKのエーリク・フォーケイ師（韓国ソウル在住）でした。中国に住む働き人のために、そして北朝鮮への聖書のために、韓国の1,880人のビジネスマンが日々北朝鮮の人々のために祈りを捧げていると報告がありました。すでに約1万5千冊の聖書を北朝鮮内に搬入することに成功しました。北朝鮮の多くの人々が食物不足で空腹を抱えています。

落成記念式典ではこのように生々しい報告がありました。どうぞ、世界の迫害下の聖徒と教会のために、続いてお祈りをお願いします。

●中部ドイツの古都ケルン市内で、10月14日トルコ系イスラム教中央会堂（モスク）から大型拡声器で、初めて「祈りの知らせ」が流されました。ケルンでは一つのモデルケースとして、毎週金曜日に5分間にわたり大型拡声器で「祈りの知らせ」が2年間流される許可で出ていましたが、はじめて実行されました。ケルンはライン川に面して立派な大聖堂がある古都だけに、イスラム教モスクとムスリムの存在は大きな課題となっています。イスラム教徒の精神面での生活は無視できない状態となっています。

「祈りの知らせ」を聞き「ケルン中央モスク」に集まるムスリム

ノルドライン州政府は、イスラム教がキリスト教社会でどの程度浸透し受け入れられるかという判断材料となる、と語っています。しかしモスクから大型拡声器による「祈りの知らせ」は、ムスリム以外の人にとってはかなりの騒音となります。それだけに賛否両論が出ています。中でもドイツ・クルド人同盟は、「ヨーロッパの都市がテヘランやカイロのようになることは、決して許されない。」と反対声明を出しています。敬虔なムスリムにとっては、1日5回のモスクからの「祈りの知らせ」は重要と理解されているだけに、これからも大議論になることは必須です。どうぞ、お祈りください。

アルメニア

ジョージア、トルコ、イラン、アゼルバイジャンに囲まれた国アルメニアは、ユーラシア大陸に位置する小国（人口約300万人）です。9月13日、この国に異変が起こりました。キリスト教支援団体CSI（ペーター・フックス牧師代表）の発表によれば、隣国アゼルバイジャン軍隊がアルメニア領に侵攻しまし、都市や町を爆撃しました。アルメニア政府の発表では100人以上の兵士と市民が死亡しました。フックス牧師の懸念は、19世紀にオスマントルコ軍によって始まった民族大虐殺事件にあります。当時、数十万人ものクリスチャンが殺害されました。それは1915年から1923年にかけて起こった悲劇でした。今回アゼルバイジャン軍がアルメニアに侵攻したことは、それ以来の大事件です。フックス師は、これ以上事件がエスカレートしないことを切願し祈ることだ、と声明を出しています。首都エレバンでは数万人のデモが起こり、ニコル・パシニャン大統領の退陣要求が高まっています。どうぞ、お祈りください。

ケニア

ウイリアム・ルトー新大統領とラケル夫人

英国BBC放送は、ケニアのウイリアム・ルトー新大統領は、福音派の信者であると報じました。首都ナイロビのサッカー競技場で行われた大統領就任式の宣誓において、「私が今ここに立っていることは、天におられる神の証である。」と語りました。これまで彼は東アフリカ・ケニア国の副大統領でした。かつてはストリートボーイであった彼は、神の助けによって今ケニア国の大統領に就任しました。彼は8月9日の総選挙において、50.5%の票を得てケニア国民の信任を得ました。今回の選挙の最大テーマは宗教でした。彼は過去の政権時代においても自分の信仰姿勢を明らかにしましたが、今回も同性愛と堕胎問題を鋭く批判しました。彼は政治的反対者からも、イエス・キリストの代理人と言われました。ケニア・アライアンス福音同盟は、ルトー新大統領を支援し祈ると公式声明を出しました。ケニア国は人口5,350万人でキリスト教徒は約82%（福音派は約31%）で、イスラム教徒は約8%です。どうぞ、お祈りください。

World View ワールド・ビュー

イ ラ ン

ナサール・テペー兄弟（左）と
ファリバ・ダリール姉妹

長い間、祈りを積んできたイランの5人のクリスチャン囚人の内、2名が10月末に突然釈放されました。ナサール・テペー兄弟（61歳）とファリバ・ダリール姉妹（51歳）です。ナサール兄弟は10年の判決を受けて5年間服役しました。ファリバ姉妹は今年のイースター・サンデーから6ヶ月間服役していました。今回の2人の突然の釈放は、パウロとシラスが獄中で経験した奇跡に等しいものでした。ナサール兄弟は地下家庭集会に参加していたところ逮捕されました。その理由は「国家の安全を脅かす存在である」というもので、10年の実刑判決を受け半分を終えたところでした。イランのエヴィン刑務所には約10人のクリスチャン囚人が収容されていますが、中でもホマヨン・ツアヴェィ兄弟（64歳）はパーキンソン病を患っています。彼の夫人も同刑務所に収容されています。2人はいずれも地下教会の信徒であり、「国家の安全を脅かす存在」とみなされています。他の8名のクリスチャンとともに、刑務所から速やかに釈放されるようお祈りをお願いします。

イ ラ ク

人口約4,150万人のイラクでは、98%がイスラム教徒です。クリスチャン数は約1.4%と言われます。2003年の米国と英国の侵攻前は、約120万人のクリスチャンがいましたが、今は約16万6千人となっています。反西洋と反キリスト教の声が高まる中、2014年イスラム国（IS）がカリフ宣言をして以来、北部モスル地方にいた多数のクリスチャンは追い出されました。その多くの難民はクルド人地区の難民収容施設にいます。2016年以来、モスル近郊にいたイラク人たちは少しずつ故郷へ戻りつつあります。しかし、彼らがかつて生活していた町や家は跡形もなくなっています。

イラク北部モスルで破壊された修道院

昨年10月の国民議会選から約1年以上が経過しましたが、政治不信を強める若者らの抗議デモの長期化が続き、外資系会社の撤退も招いています。世界第5位の産油国ではありますが、政治、経済の大混乱が続いています。国民は生きるための多くの課題を抱えています。どうぞ、イラクのためにお祈りください。

神の密輸商人

宣教団体「オープン・ドアーズ」の創設者オランダ人のブラザー・アンドリュー師が、94歳の天寿を全うし9月24日に召天されました。彼は1955年、鉄のカーテン下にあった当時の旧ソ連はじめ東欧諸国へ宣教活動を開始しました。無神論社会と共産主義独裁社会の中で、キリスト信仰を持つことが禁じられた時代でした。しかし彼はイエス・キリストへの信仰を持ち勇敢でした。小型フォルクスワーゲン車に聖書と信仰書を積み、迫害下にあった聖徒たちに密かに届け続けました。1967年、彼の書いた「神の密輸商人」は世界的ベストセラーとなり、世界36言語に翻訳され1千万冊以上も売れました。鉄のカーテン崩壊後、旧ソ連秘密警察（KGB）の極秘文書（コピー）を手にしたブラザー・アンドリュー師は、「彼らは驚くほど多くの情報を入手していたが、私の働きを止めることは出来なかった。」と語りました。

現在、「オープン・ドアーズ」は世界70ヵ国に支部を持ち、尊い働きをしています。同団体は、キリストの名のために迫害を受けている聖徒たちとその家族へ、聖書と信仰書、そして生活必需品等を届ける尊い働きをしています。またブラザー・アンドリュー師はイスラム教過激派指導者とも面会し、パレスチナ自治区の元指導者アラファト議長（1929年～2004年）とも面会し、聖書の神を伝えたというエピソードが残っています。多くの人々が「彼は信仰の人」であったと証言しています。聖書の神は弱さのうちに働かれ、尊いわざをなされるお方であることを証し続けた神の器でした。

ブラザー・アンドリュー師

ミッション・宣教の声 *The Voice of Mission*

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP関西センター 5F
TEL06-6226-1334 FAX06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/
発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500（送料込）

郵便振替口座 00940-3-301623
銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店（店番205）
普通口座 3623132「ミッション宣教の声」

The Voice of Mission
MUFG Bank,Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT
Bank Address : 59-2 MIkunigaoka-Miyukidoori,Sakai-ku,
Sakai-shi,Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041

編集後記

■御子イエス・キリスト誕生を心から感謝します。御子のイエスの名が、全世界で賛美され称えられますように。そして読者の皆様の上にも、天来の祝福がありますように。

■今年2月24日、プーチン・ロシア軍のウクライナ侵攻が始まり、世界は大きく揺れ動き、今も多くの人々が苦汁を強いられています。アジアではミャンマー、スリランカ、アフガニスタンと混乱が続く年でした。私たちはこれらの国々の聖徒たちを忘れることなく、祈り覚えましょう。

■今年1年間、ミッションは皆様の祈りとご支援に支えられ、心から感謝とお礼を申し上げます。置かれた所で祝福されたクリスマスをお迎えください。感謝。

1981年12月初版発行（毎月1回1日発行）